

【連載】

老健仕事人  理学療法士

36年の歩みと 令和6年度介護報酬改定への期待



上野 晃 [うえの・あきら]
介護老人保健施設平成園（茨城県）
副施設長

はじめに

いま振り返ると、あっという間に駆け抜けてきた36年間のように感じます。

私は卒業後すぐ栃木県の公立総合病院で理学療法士として4年ほど勤務し、その後現在の茨城県古河市にある医療法人慈政会介護老人保健施設平成園へ転職。はや32年が経過しました。

まだ理学療法士という資格が一般的に知られていなかった時代から携わらせていただき、関係する方々にリハビリの重要性を説明することが多々ありました。

最初に勤務し始めた頃、理学療法士の数は少なく、栃木県の理学療法士協会会員数はたった46名で、ほとんど皆が顔見知りというようなせまい世界でした。その後養成校の増加により、いまでは1つの施設で100名以上のリハビリ専門職が活躍することも珍しくなくなりました。その一方で医療・介護保険の度重なる改定により書類業務が増え、患者さまやご利用者と向き合う時間が減少してしまったように感じます。

施設紹介

私の在籍する医療法人慈政会は468床の病院、外来専門クリニック、100床の老健施設2か所、デイケア施設4か所、介護福祉施設1か所、グループホーム・ケアホーム1か所等で構成されています。当園は

茨城県古河市の商業施設が多数集まる地域にあります。古河市は関東地方のほぼ中央、茨城県西端の県西地域に位置し、人口は約14万人です。JR宇都宮線を使えば東京まで1時間ほどの通勤圏ですが、若い方の流出が多く、高齢化も問題となっております。2025年度には高齢化率が30.7%となる予想が出ています。

業務内容

現在は理学療法士として臨床に携わる傍ら、副施設長として施設のマネジメント業務を担当しております。まだ経験が浅かった頃は教科書的な理想ばかりを追いかけていましたが、ときを経てご利用者やご家族の背景や環境を考えられるようになりました。ご利用者のご家族にとって最も幸福とだけ思っていただけのようなアプローチを心がけています。

在宅復帰の際は、ご利用者だけでなく、同居されるご家族の快適性にも配慮しています。また施設入所中は、前向きな姿勢で明るく楽しく体力づくりができるよう、雰囲気づくりも重要と考えております。

リハビリのプログラムには高齢者の方でも可能な限り積極的に筋力トレーニングをとり入れ、「5歳若返っていただく」を目標に掲げています。またマネジメントに関しては職員の人材確保にも力を入れ、さまざまな方法で情報発信を心がけており、ご利用者のニーズにも限りなくお応えできるよう努力しています。